

児童発達支援事業所



2025. 6 月号

Eメール koroiba_mori@basil.ocn.ne.jp

ホームページ <https://minnanomori.jp/>

お親子クッキングへのご参加ありがとうございました

5/31 に開催した親子クッキングは、9 組の方が参加して下さいました。今回は、まつのき保育園の栄養士に普段子どもたちが給食で食べているメニューを教えて頂き、2 グループに分かれて作りました。真剣な表情で包丁を握り野菜を切っている子、友だちがやっている様子を気にしながら野菜をさいている子もいました。ホイル焼きでは、野菜をどのくらい入れようか、たくさんの調味料から何味にしようかと考え、自分好みの味付けを選んで作っており、ホットプレートから出てくる湯気に「いいにおい～」と出来上がりを楽しみにしていました。親子で一緒に作る中で、「上手に切れたじゃん」「できたね!」と自然に親子の会話が弾み、そこに笑顔で返す子どもたちを見てほっこりする場面も多くありました。

給食では、あまり食べが進まない子も自分で食具を持ってパクパク食べ進めたり、食べてみようという気持ちになる良い機会となったのではないかと思います。日々の保育の中でも野菜を育てて調理をする機会を今後も多く取り入れていき、楽しく食事することやいろいろな食べ物に挑戦する機会を作っていき、食育に繋がっていきたいと思います。ご家庭でも簡単なものから親子で一緒にクッキングを楽しんでみてください。

作ったメニュー：ご飯、すまし汁、カレーのホイル焼き、
切干大根のサラダ、寒天ゼリー



6/16(月)はプール開きです！入水チェックをお願いします。

水着・水泳帽・フェイスタオルを袋にひとまとめに入れて利用日は毎回持たせて下さい。

・ころころ玄関から登園する子は、玄関の体温表にプールの入水の有無を記入ください。

・早番でまつのきに登園する子は、連絡帳の『プール遊びチェック表』に記入をお願いします。

★午後まころころ利用の児童は、リラックスタイム用のバスタオルもお忘れなく！！



🌻たいよう🌻

< 大好きな森探検 >

子どもたちが好きな場所の一つに、園庭東側の通称“もり（森）”があります。入り口近くの広場になったところを奥に進むと草むらがあり、虫がいたり、雑草がきれいな花を咲かせています。子どもたちの背丈くらいのみかんの木に青虫を発見し、「なにかいるー！」と第一発見者のA君が大きな声でクラスの友だちに教えます。「どこ？」と近寄り、小さな生き物を不思議そうにじっと見つめる子。「これは青虫だよ」と後ろから声をかけると「アオムシ！」と大きな声で繰り返しました。初めて見るであろう生き物にどんな感想を持ったでしょう。きっと子どもの毎日は小さな感動の連続ですね。

木や草の間の通路を探検しようと歩き始めたのはB君。鬱蒼とした草むらにずんずん入っていきます。ものおじしないB君の後ろ姿に逞しさを感じました。ところがしばらく進むとでこぼこ道に足を取られて、しりもちをついてしまいました。物音に気付いた友だちが「たいへん、いま助けにいくよ！」とすぐに駆け付けて、手を引いてくれました。仲間意識も少しずつでき始めています。

森に出かけると様々な生き物や出来事に出会います。自分の目で見て、肌で感じて、五感を使って経験したことは、図鑑やテレビの画面で見るとは違い、子どもの感性に様々な刺激を与えます。豊かな実体験を重ねていくことで、心や体の発達を促していきたいと思います。



☆ほし☆

< 感触遊びをたのしもう！！ >

5月はさまざまな感触にふれ、じっくり遊び込む経験を積むことをテーマに様々な感触遊びを行いました。絵の具遊びに土いじり、泡遊びも行いました。先日の泥んこ遊びでは、

雨上がりの湿った砂をスコップで掘り、みんなで山を作ったり、スコップを掘り進めて水路を作りました。「水が欲しいね！」との声に、保育者が「あそこ（水道）から水をくんでいいよ」と話すと、タライに水を入れて運び始めました。

最初は保育者と一緒に水を運びました。砂山まで運ぶとA君が「3，2，1！」と掛け声をかけてくれました。「せーの」とタライをひっくり返します。水が水路を流れ出る様子に「ワ～、やったー」と大喜びの子ども達です。そのうちにA君が「ねえ、水もってきてくれない」と声をかけるとB君が「わかった」と言い水を運びにきました。C君が「誰か一緒に水はこんで」と言うとA君が「いいよ。行ってあげるね」と声を掛け合い、仲間たちで遊びを進めて行く姿がありました。

さまざまな感触を味わうことは、ツルツル、ベタベタ、ムニムニ、ザラザラなどと沢山の感覚を味わいます。心地よかったり逆にちょっと苦手かも・・・と覚えることもあるでしょう。それは『さまざまな感触を自分の中に受け入れ、それと折り合いをつけて付き合っていく』人間が社会生活を営んでいく中で、折り合いをつけながら生活をしていくのに似ています。だからこそ、先日の泥んこ遊びでは友だち同士で自然と協力し合い、遊び込んでいく姿に繋がったのでしょう。

感触あそびは自分の働きかけで素材が変化し、楽しさを味わったり、汚れることも気にしないで心を開放して遊ぶことが出来ます。その他にも問題解決能力を育んだり、社会性の発達を促します。これからも五感をはぐくみながら、人やものと仲良くなる感触遊びを楽しんでいきたいと思っています。